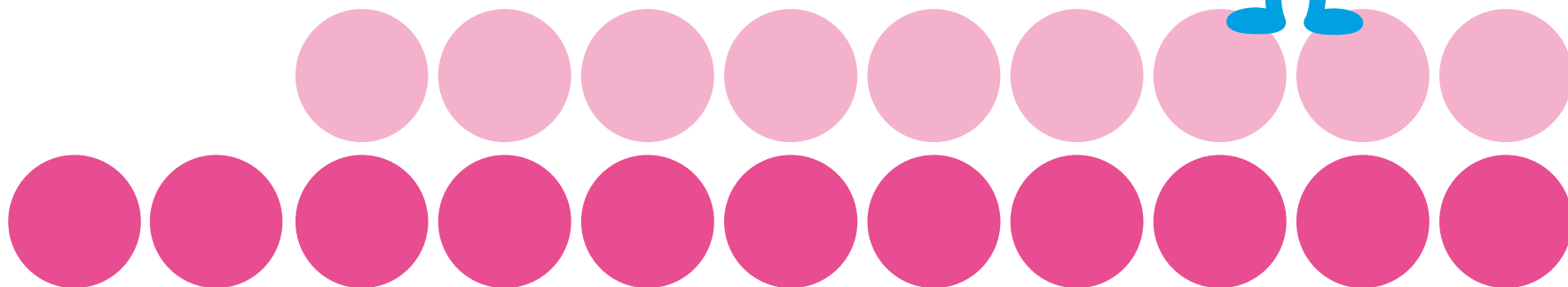


通年性アレルギー性鼻炎で お悩みの方へ

よくわかるダニアレルゲンによる
通年性アレルギー性鼻炎の舌下免疫療法

監修：

日本医科大学大学院医学研究科 頭頸部・感覚器科学分野 教授
大久保 公裕 先生



鳥居薬品株式会社

CONTENTS

- はじめに ～通年性アレルギー性鼻炎にお悩みの方へ～
- 通年性アレルギー性鼻炎とは
- 通年性アレルギー性鼻炎の割合
- アレルギー性鼻炎が及ぼす影響
- 通年性アレルギー性鼻炎の主な原因として考えられるダニが好む環境
- 通年性アレルギー性鼻炎の診断
- 通年性アレルギー性鼻炎の治療
- アレルゲン免疫療法とは
- アレルゲン免疫療法の種類
- ダニアレルゲンによる通年性アレルギー性鼻炎の舌下免疫療法
- 治療薬の服用方法の例
- 服用時に避けること
- 効果を発現するメカニズム
- 期待できる効果
- 副作用
- 舌下免疫療法をご希望の方へ

はじめに ～通年性アレルギー性鼻炎にお悩みの方へ～

ダニ、真菌（カビ）、昆虫、ペットの毛などが原因となり季節に関係なく下記のような症状があらわれる疾患を「通年性アレルギー性鼻炎」といいます。

- くしゃみがよく出る
- さらさらした鼻水が出る
- 鼻がつまる
- 鼻や目がかゆい など



通年性アレルギー性鼻炎の治療法のひとつに、アレルギー免疫療法^{めんえきりょうほう}があります。これまでのアレルギー免疫療法は皮下^{ひか}に注射する「皮下免疫療法^{ひかめんえきりょうほう}」だけでしたが、最近では、舌の下に治療薬を保持する「舌下免疫療法^{ぜっかめんえきりょうほう}」のお薬が登場し、自宅で服用できるようになりました。

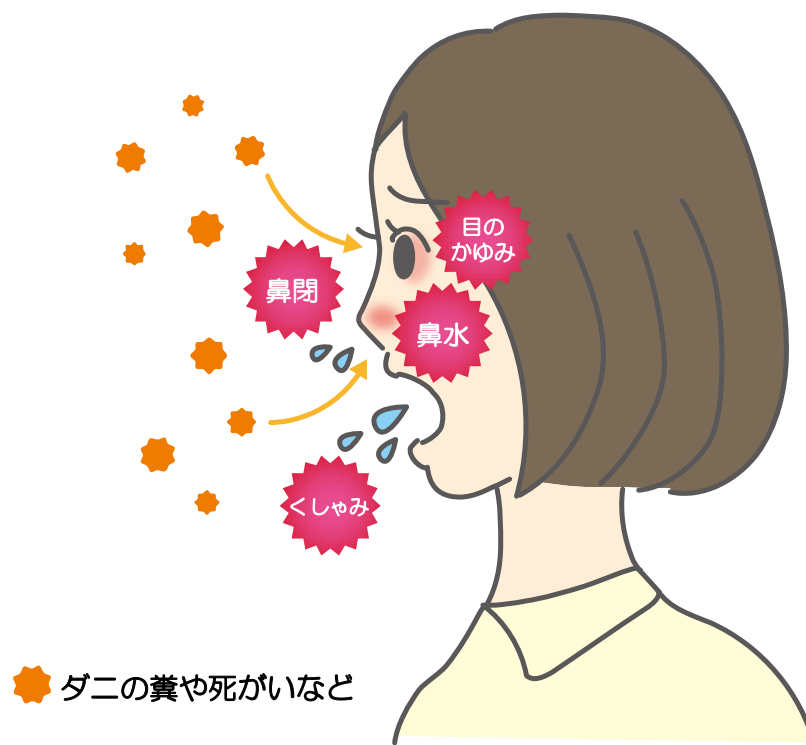
本スライドでは、通年性アレルギー性鼻炎にお悩みの方に、舌下免疫療法についてわかりやすく解説します。

通年性アレルギー性鼻炎とは

通年性アレルギー性鼻炎とは、くしゃみ、鼻水、鼻づまりなどのアレルギー症状が、季節を問わずあらわれる疾患です。

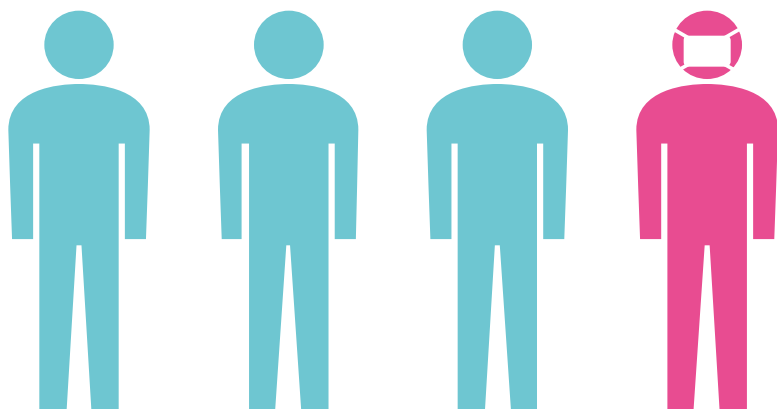
通年性アレルギー性鼻炎の主な原因（アレルゲン）は、ダニ、真菌（カビ）、昆虫、ペットの毛などが知られています。

鼻の症状だけでなく、目のかゆみや涙目をとともなうこともあります。



通年性アレルギー性鼻炎の割合

アンケート調査の結果、日本人の23.4 % ※ の人が通年性アレルギー性鼻炎であることがわかりました。



約4人に1人が
通年性アレルギー性
鼻炎といえます。



※鼻アレルギー診療ガイドライン作成委員会. 鼻アレルギー診療ガイドライン2016年版（改訂8版）. ライフサイエンス, 2015より

参考：アレルギー性鼻炎が及ぼす影響

アレルギー性鼻炎のつらい症状は、日常生活のさまざまな場面で影響を及ぼすことがわかっています※。

勉強・仕事・家事の支障



精神集中不良



思考力の低下

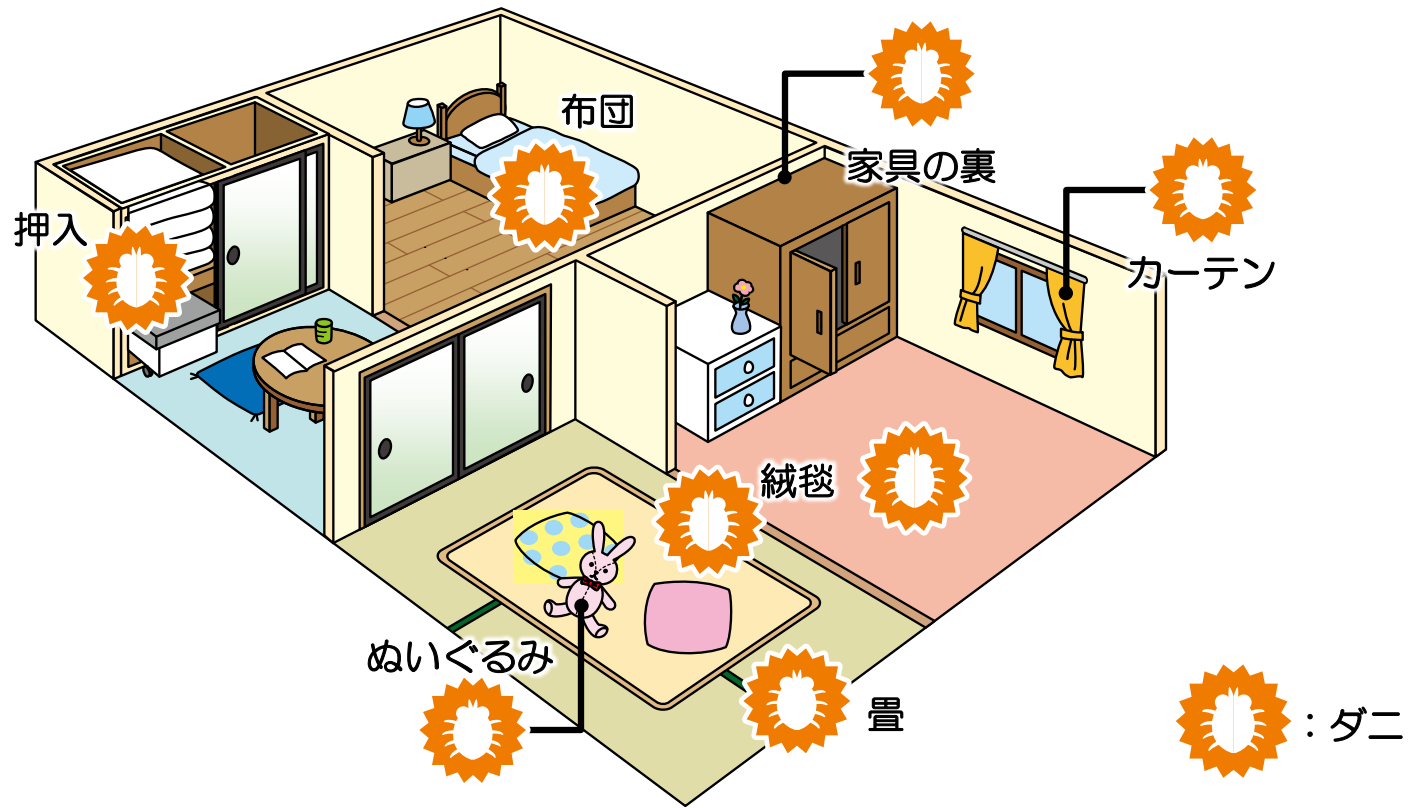


新聞や読書の支障

※大久保公裕ほか:アレルギー・免疫 19 (1) :113, 2012

通年性アレルギー性鼻炎の主な原因として考えられるダニが好む環境

通年性アレルギー性鼻炎の主な原因として考えられているダニは、暖かく、湿気のある布団や^{じゅうたん}絨毯、畳などを好みます。



(監修) 国立病院機構相模原病院 臨床研究センター センター長 谷口正実先生
診断・治療薬開発研究室長 福富友馬先生

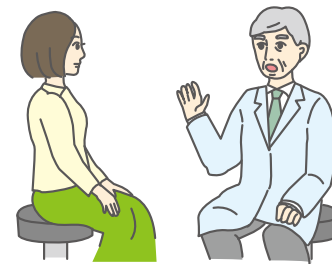
通年性アレルギー性鼻炎の診断

通年性アレルギー性鼻炎は、問診と、皮膚^{ひふ}反応テストや血清^{けっせいこうたい}抗体検査などの検査結果から総合的に診断します。検査では、鼻炎の原因（アレルゲン）が特定されます※。

※ 通年性アレルギー性鼻炎は、主にダニに由来するアレルゲン（ダニアレルゲン）が原因と考えられていますが、そのほか、真菌（カビ）、昆虫、ペットの毛などの可能性も考えられます。

問診

通年性アレルギー性鼻炎かその他の疾患かを判断するために、症状が出る時期や程度、アレルギー歴などについて聞かれます。



通年性アレルギー性鼻炎の検査

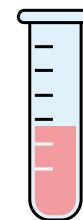
● 皮膚反応テスト

アレルゲンに対する皮膚の反応を調べます。



● 血清抗体検査

血液検査をします。
アレルゲンに対する抗体の量を調べます。



● 鼻鏡検査^{びきょう}

鼻鏡と呼ばれる道具を使って鼻の粘膜を確認します。

● 鼻汁検査^{びじゅう}

鼻水を採取し、鼻汁中の好酸球を調べます。

通年性アレルギー性鼻炎の治療

通年性アレルギー性鼻炎の治療では、アレルゲンを避けることが基本になりますが、必要に応じて薬物療法やアレルゲン免疫療法、手術療法などを行います。

アレルゲンの除去・回避

室内や寝具などを清潔に保ち、アレルゲンを回避します。



アレルゲン免疫療法

体をアレルゲンに慣らして、症状を和らげます。根本的な体質改善が期待できます。



薬物療法

症状を起こす物質（ヒスタミンなど）の働きや鼻の中の炎症をおさえて、症状を和らげます。



手術療法

鼻の粘膜を固くしたり、神経を遮断して、症状を和らげます。

舌下免疫療法はアレルゲン免疫療法に分類されます。



アレルギー免疫療法とは

アレルギー免疫療法は、アレルギーの原因であるアレルギーを少量から投与することで、体をアレルギーに慣らし、症状を和らげる治療法です。原因となるアレルギーを用いて行う治療法のため、原因となるアレルギーを確定する確定診断が重要です。

- アレルギー症状を治したり、長期にわたり症状をおさえる可能性のある治療法です。

症状が完全におさえられない場合でも、症状を和らげ、お薬の使用量を減らすことも期待できます。

- アレルギーを投与することから、局所や全身のアレルギー反応がおこるおそれがあり、まれに重篤な症状が発現するおそれがあります。
- 治療は長期間（3～5年）かかります。
- すべての患者さんに効果が期待できるわけではありません。

アレルギーの投与量を少量から始め、徐々に増やしていく

長く続けることが大切です。



一定量のアレルギーを長期間投与

治療期間は3～5年

アレルギー免疫療法の種類

アレルギー免疫療法には、「皮下免疫療法」や「舌下免疫療法」などがあります。

皮下免疫療法



舌下免疫療法



皮下免疫療法は、皮下に注射する治療法で、医療機関で行われます。注射であるため痛みを伴い、さらに治療のはじめは徐々に増量するため頻回に通院が必要となります。

一方、舌下免疫療法は舌下に治療薬を投与するため、皮下免疫療法のような痛みがなく、自宅で服用できます。しかし、服用量や服用方法、副作用に対する対応など、医療機関で行う皮下免疫療法と比べてより治療に対する患者さんの理解が必要な治療法です。

わが国における舌下免疫療法では、スギ花粉症とダニアレルゲンによる通年性アレルギー性鼻炎が保険適応となっています。

ダニアレルゲンによる 通年性アレルギー性鼻炎の舌下免疫療法

通年性アレルギー性鼻炎でダニアレルゲンが原因と確定診断された12歳以上の患者さんは、舌下免疫療法による治療を受けることができます。

服用期間の例

- 1日1回、少量から服用をはじめ、その後決められた一定量を数年間にわたり継続して服用します。
- 初めての服用は、医療機関で医師の監督のもと行い、2日目からは自宅で服用します。

少量から服用

決められた一定量を服用
(定期的に受診※)

3年以上(推奨)

※少なくとも1ヵ月に1度、受診が望めます。

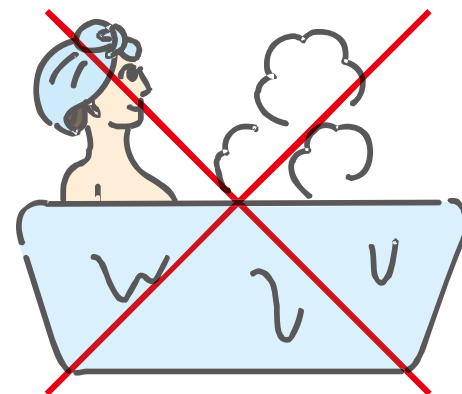
治療薬の服用方法の例

治療薬を舌の下に置き、お薬ごとに定められた時間保持したあと、飲み込みます。その後5分間はうがい・飲食を控えます。



服用時に避けること

服用する前後2時間程度は、激しい運動、アルコール摂取、入浴などは避けるようにしてください。



効果を発現するメカニズム

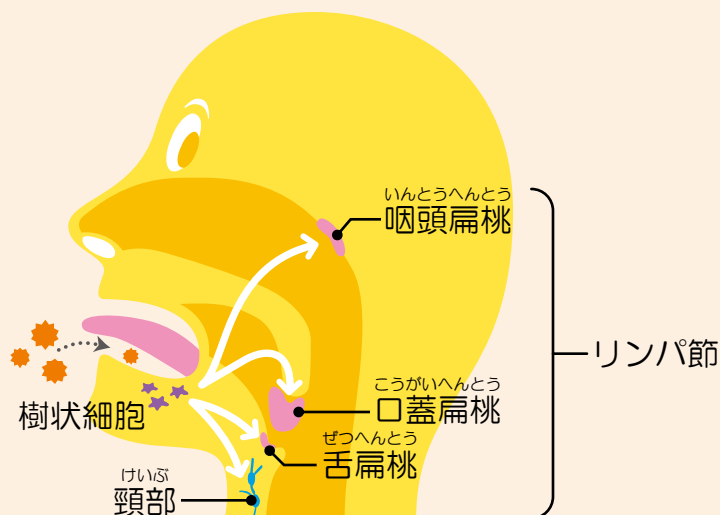
効果を発現するメカニズムは十分には解明されていません。
舌の下から入ったダニアレルゲンが体内で反応し、アレルギー反応を抑制する免疫反応がおこることによって症状がおさえられると考えられています。

ダニアレルゲンによる
アレルギー反応



★:ダニアレルゲン

症状の抑制



よくせいけい めんえきゆうどう
抑制系の免疫誘導によって症状がおさえられる。

期待できる効果

長期にわたり、正しく治療が行われると、アレルギー症状を治したり、長期にわたり症状をおさえる効果が期待できます。

症状が完全におさえられない場合でも、症状を和らげ、アレルギー治療薬の減量が期待できます。

くしゃみ、鼻水、
鼻づまりの改善



涙目、目のかゆみの
改善



アレルギー治療薬の
減量



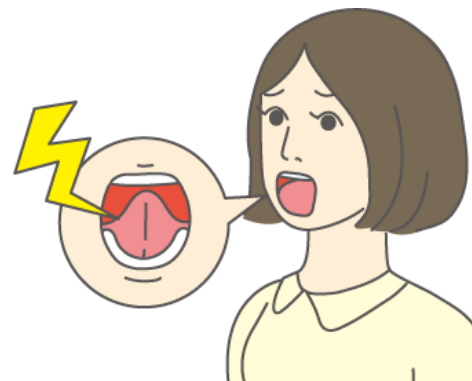
QOL（生活の質）の
改善



副作用

舌下免疫療法には、以下の副作用があらわれるおそれがあります。

- 口の中の浮腫^{ふしゅ}、かゆみ、不快感、異常感
- 喉^{のど}の刺激感、不快感
- 耳のかゆみ など



重大な副作用

- ショック
- アナフィラキシー※ など

※アナフィラキシー

医薬品などに対する急性の過敏反応により、医薬品投与後多くの場合30分以内で、蕁麻疹^{じんましん}などの皮膚症状や、腹痛や嘔吐^{おうと}などの消化器症状、息苦しさなどの呼吸器症状、突然のショック症状（蒼白^{そうはく}、意識^{いし}の混濁^{こんだく}など）がみられる。

治療に対する正しい理解が必要です。



舌下免疫療法をご希望の方へ

治療を受ける前の心構え

- 長期間の治療を続ける
- 治療薬の服用を毎日継続する
- 少なくとも1ヵ月に1度※ 受診する
※新医薬品の場合は、発売後約1年間は2週間に1度
- すべての患者さんに効果を示すわけではない
- 効果があって終了した場合でも、その後効果が弱くなる可能性がある
- アナフィラキシーなどの副作用がおこるおそれがある



WEBサイトでも解説しています

アレルギー免疫療法について詳しく解説したホームページ

「トリーさんのアレルギー免疫療法ナビ」

もぜひご覧ください。



<http://www.torii-alg.jp/>

トリーさん

検索

スマートフォンなどの携帯電話からでもご覧いただけます▶



QRコード